

# 和牛肥育の1年

## 第1回 和牛肥育の設計と素牛の選び方

かな が より え  
嘉 寿 頼 栄

食肉需要の増大とともに肉畜振興が強く叫ばれております。そこで和牛試験場の嘉寿課長さんに、丁度時期もよく素牛の購入から始めていただき、和牛肥育の1年間を2ヵ月に1回の割合で書いていただくことにしました。

岡山県下での和牛の肥育は大半が早いもので1月、短期のものでは6月までに素牛を購入し、体型・資質のよいものは11月末から12月の終りまでに出荷されるものが多いようです。これら肥育の一年間を順を追ってその要点などを申し上げて見ることにいたしましょう。先ず一番に考えられることは、年間の肥育設計を年度の始めにたてることが大切で、その地方の立地条件なり、素牛の入手の関係、飼料の自給度との関係から、どの型の肥育を行うかということを決めることが大切です。

### 肥育の型

ここで先ず一般的に考えられている肥育の型を次に申し上げて見ることにいたしましょう。

### 去勢牛の肥育

(1) 幼令肥育—生後10ヵ月から12ヵ月位までに余り脂肪をつけないように、体重220~260kg(60~70貫)にして出荷するもので、加工用肉または肥育素牛を目的とするものであって、これには発育のよい子牛を求め、離乳直後の飼養管理に注意することが大切です。現在のように子牛が安い場合には充分この型も成り立ちますが、加工原料肉としては考えないで、若令肥育に移す素牛として考えるべきでしょう。

(2) 若令肥育—生後18ヵ月位で体重450kg(120貫)前後に仕上げて出荷するもので、これは精肉になるものです。昨今は肥育牛が一般に若令化し去勢の場合は大半がこの型になりますが、この場

合は離乳後約1年間、育成ならびに肥育をしなくてはなりませんから、良質の粗飼料を確保する必要があります。

(3) 壮令肥育—2~3才の去勢牛を用いますが、体型・資質により仕上げの体重もいくぶん変えた方がよく、資質のよいもので、500~600kg(130~160貫)、資質の悪いものは500kg(約130貫)までくらいにして出荷するのが経済的です。肥育期間も、素牛により4ヵ月から7ヵ月間の、短期の肥育になります。しかし最近はこの素牛が年々少なくなり入手困難な状態になってきました。

### 雌牛の肥育

(1) 雌の上物肥育(理想または長期肥育)—資質、体型の優良な3~5才の未経産または一産までの雌牛で、肥育技術の経験のある人が行う肥育ですが、これは優秀な指導者も必要です。仕上げは525~635kg(140~170貫)にして出荷するもので6ヵ月~1年位かかります。この型の肥育は広く一般にすすめられるものではありません。

(2) 雌の普通肥育(中、短期肥育)—素牛の資質も余りよくなくてよく、2、3産子を生んでいてもよろしい。仕上げ体重は物によりますが、普通525kg(140貫)まで位で充分です。肥育期間は4ヵ月~6ヵ月位はかかります。

(3) 老廃牛の肥育—大体年令が8才以上のもので、繁殖地帯やこれに隣接した地方で、素牛の入手容易な所で行われる肥育です。半肥育程度でよいので、精々450~500kg(120~130貫)で出荷します。肥育期間も3ヵ月前後の短期で結構でしょう。これ以上飼っても太ることは太りますが経済性はそれ以上には出てこないものです。

### 雄牛の肥育

県下一部の地方で行われていますが、役を兼ねて

## 岡山畜産便り 1964.02・03

のものが多く、役の問題が考えられなくなった今日、以後去勢牛にした方がよいでしょう。

以上のように大別することができますが、前にも述べましたとおり色々な諸条件を考え合わせて、どの肥育型態のものがその地帯に一番よいかを先ず考えて肥育にかかることが大切でしょう。次に、出荷後のこのごろでは、次の素牛を買う時期ですが、素牛に適当な牛が買入れられるか否かは、肥育の儲けに大きな影響を与えます。ここで一応一般的な素牛の選定の要領を重点的に記して見ます。

### 素牛の選定

#### 1、素牛の選定上一般的条件

- (1) 『肥育のゆき方に合った素牛を選びましょう』  
一たとえば若令肥育とか雌の老廃肥育を行うとかいったように自分で計画します。
- (2) 『飼料の利用性を高い牛を選びましょう』  
一食欲が旺盛で何でも食べるような牛であることで、肥育牛はとにかくよく食べてくれないと太りません。それには体型的なものがあります。
- (3) 『発育のよい牛を選びましょう』  
一発育不良の牛は太りがよく、年令相当に発育していなければなりません。しかし、大きいばかりがよい訳でなく標準に照らし過大のものはいけません。
- (4) 『健康な牛を選びましょう』  
一買入れの時、下痢をしたり鼻汁等出していて、何か病気をしているような牛は止した方がよろしい。
- (5) 『妊娠牛やカモ牛を避けましょう』  
一妊娠中の牛は、肉質がもちろん悪く業者の人もきらいですし、高く売れません。またカモ牛についても太りにくく肉質が悪いので避けた方がよろしい。豚尻のものも同様です。

#### 2、若令肥育素牛の選定条件

- (1) 『哺乳中に去勢したものがよろしい』  
一哺乳中に去勢したものは発育も遅れておらず、資質もよいものが多く、仕上げた場合に肉質もよろしい。
- (2) 『発育のよい牛であること』  
一特に若令のもので発育の悪いものは非常に肥育度が遅れてきます。
- (3) 『大きくなりそうな牛であること』  
一牛の体重は何といっても体高が出てこないと体重は軽いも

ので、深みや肋張りのよいもので、大きくなるものではなくてはなりません。総べて牛の大きくなる尺度は飛節の高さによって計られるものです。それは飛節が高く、繋ぎの長いものが大きくなるという訳なのです。

#### 3、雌牛上物肥育用素牛の選定条件

- (1) 『資質のよい牛を選ぶこと』  
一資質のよい悪いは角とか被毛、皮膚、骨繋等で見ますが、資質の悪い牛は肉質も悪いので少なくとも中の上から上物であることが大切です。
- (2) 『過大な牛は避けること』  
一過大なものは応々にして資質も悪く粗大なものが多いからです。
- (3) 『背線と肩のしっかりした牛であること』  
一背線が真直ぐで幅のあるもので肩つきも丸味をおびた余り上ってないものがよろしい。
- (4) 『後軀ばかり広く、背幅の狭いものはいけません』  
一体系的に見て上物の肥育ができません。
- (5) 『雌牛では、理想をいえば、未經産牛か一産次までの若牛を選ぶべきでしょう』  
一普通肥育では三産次位の老廃でないものを選ぶことでしょう。

#### 4、短期、中期肥育用素牛の選定条件

- (1) 『肋張りがよく、中軀の幅と深みに富むこと』  
一短期間で仕上げるためには特に必要なことです。
- (2) 『肢が短く、胴の少し短めの方が太り易い』  
一足の長い牛ほど飼いにくく、長くかかります。
- (3) 『肩が厚く、前肢の間の広いこと』  
一肩の厚い牛は早く太りやすく、前肢の間の広いものは胸が広く幅のある健康な牛が多いからです。
- (4) 『顔と顎とが短めなこと』  
一特に短期の場合はこれらの牛が早熟性に富んでおります。
- (5) 『小さ過ぎる牛と、発育の悪い牛はよくありません』  
一小さい牛は増体率が少なく、成績もよくありません。
- (6) 『皮膚にゆとりがあること』  
一年令のいった牛でゆとりのない牛は応々にして、早く太りにくいものです。
- (7) 『栄養の特に悪い牛はいけません』  
一老廃牛などで離乳直後で特に栄養の悪いものは 300kg (50

### 岡山畜産便り 1964.02・03

貫) 位のものがありますが、この場合一応2ヵ月位良質の草で飼い、375kg (100貫) 前後にしてから、本格的な肥育を3ヵ月行いますと、500kg (130貫) 程度になります。

(8) 『老廃牛の肥育の場合には必ず歯を調べて、抜歯や不正磨滅などの有無を見ましょう』—これ等がありますと肥育成績に大きく影響しますので注意した方がよろしい。

その他色々注意すべきことがあります、その人の今までの経験なり、技術を充分活用して計画なり、選定をして頂くことが成績に大きく影響しますので注意していただきたいと思います。